

会 議 議 事 録 (要 旨)

会 議 等 の 名 称	令和7年度第1回磐田市子ども・子育て会議
担 当 部 課 名	こども部こども未来課
開 催 日 時	令和7年8月20日(水) 14:00～15:35
開 催 場 所	豊田支所 大会議室
出 席 者	出席委員(敬称略11人) 富永 美紀子、堀内 真奈、鈴木 亘、松野 裕貴、山下 元子、松下 忠史、高橋 里枝、鈴木 敏弘、松下 尚子、山田 悟史、杉本 真美子 事務局(19人) ・こども部長 牧野 ひろみ ・こども部 - こども未来課長 伊藤 里香 - 課長補佐兼発達相談G長 青木 明博 - 部付主査兼こども政策G長 石代 貴義 - こども政策G主任中川 淳子、こども政策G副主任今井 啓裕 - 幼児教育保育課長 内野 恭宏 - 課長補佐兼総務G長 鈴木 崇寛、総務G主査 榊原 悟 - 主査兼運営支援G長 鈴木 良幸 - こども若者家庭センター長 和久田 徹 - センター長補佐 青島 やよい - 主幹兼相談G長 山田 めぐみ - 主査兼子育てサポートG長 佐伯 聖子 - ひとほんの庭 にこっと主幹館長 藤田 昌弘 ・教育部 - 学校教育課長 森下 昌司 - 主幹兼指導G長 増山 尚俊 - 放課後活動課長 岡部 雅 - 主査兼児童クラブG長 内山 雅史
議 題	(1) 第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画の完了報告について (2) 幼稚園・保育園・こども園の利用定員の変更について
配 付 資 料 等	資料1 第二期磐田市子ども・子育て支援事業計画の完了報告 資料2 利用定員の変更(案)について 資料3 磐田市子ども・若者スマイルプラン～磐田市こども計画～について 資料4 磐田市こどもの権利と笑顔約束条例制定及びこどもの意見反映について

1 開会	
2 挨拶	
・新任委員紹介	
・委嘱状の交付	新任委員に委嘱状交付
・自己紹介	
・会長あいさつ	皆様改めましてこんにちは。会長の山田です。私は大学で保育や保健体育教員の養成を担当しています。 子どものためと言いながら、実際には子どものためになっていない事例が見られます。例えば、学校や運動部での体罰、いじめ、暴力の問題が依然として存在しています。これらの問題を解決するためには、子どもの声を聞くことが最も重要だと考えています。 この「子ども・子育て会議」では、直接的にこれらの問題に踏み込むことは難しいかもしれません。しかし、私たち一人一人がこういった問題に意識を持ち、注視し、意見を交わしていくことが重要です。 難しい課題もありますが、皆様のご協力をいただき、有意義な会議にしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。
2 議題	
会長	議事に入ります。議題1「第2期磐田市子ども・子育て支援事業計画の完了報告について」を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。
事務局 (こども未来課)	事務局説明 (資料1)
会長	ありがとうございました。 i ぽーと、寄り添い型支援について、どういった特徴か、もう少し具体的に教えてください。
事務局 (こども若者家庭センター)	市内の10中学校区ごとに配置された地区担当保健師が、話を聞きながら子育てにおける不安や悩みに一緒に向き合っています。母子健康手帳交付時などに似顔絵入りの名刺を渡すことにより相談しやすい環境を作っています。
委員	病児・病後児保育の利用実績が計画値を大きく上回っています。これは情報の浸透や、仕事を休めない社会情勢を反映していると考えられます。しかし、この数値の増加を単純に良いこととは言えません。この状況を改善するため、市は企業や商工会議所などと連携した施策を検討し

	ているでしょうか。
事務局 (幼児教育保育課)	病児・病後児保育事業の利用者増加を踏まえ、今後の対応を検討する必要があります。企業側には、預けられる場所の確保と休暇取得のしやすさのバランスを考慮してもらうよう働きかけることが重要です。市では、ワーク・ライフ・バランス推進企業の認定制度を設けており、これを活用しながら企業への働きかけを検討していきます。
会長	行動指針6の安全・安心な道路交通環境整備について、市が交通安全の啓発活動時に使用している旗は大きく、多くの人が一箇所に集まることで逆に危険が生じる可能性があると感じています。子どもが見えにくくなったり、安全性が低下したりする懸念があります。より効果的な方法として、活動を分散させることを提案します。今後、交通安全の啓発活動の方法を見直す際には、こうした点も考慮に入れて改善していただきたいと思います。
(会長)	また、表に達成率とありますが、見込みに対する実績ということですね。100%を中心に、そこに近い数字であれば、ほぼ見込みどおりという見方になると思います。
会長	では次に議題2「幼稚園・保育園・こども園の利用定員の変更について」、こちらも事務局から説明をお願いします。
事務局 (幼児教育保育課)	事務局説明
会長	幼稚園枠の縮小と保育園枠の拡大が最近の主流になっているようです。新しい施設のイーリスプレスクールの場所はどのあたりでしょうか。
事務局 (幼児教育保育課)	イーリス・プレスクールは豊田北部幼稚園の西側に建設中で、豊田北部幼稚園と豊田北保育園とほぼ同じエリアに位置します。利用者にとって場所的な変化は少ないでしょう。現在の在園児に対しては、希望に応じて丁寧に対応し、他の園を希望する場合もしっかりサポートする予定です。
4 報告事項 会長	次に報告事項です。報告事項の1つ目「磐田市こども・若者スマイルプラン（磐田市こども計画）について」、及び、報告事項の2つ目「磐田市

	こどもの権利と笑顔の約束条例制定及びこどもの意見反映について」、事務局から報告をお願いします。
事務局 (こども未来課)	事務局説明 (資料 3、4)
会長	5 年生から 20 歳代 20 人がこのこども・若者会議のメンバーということですが、どの年代が多いのか、それから男女比を教えてください。
事務局 (こども未来課)	人数の割合ですが、小学生が 7 人、中学生が 9 人、高校生が 2 人、大学生が 2 人になります。
会長	雰囲気はどうでしょうか。
事務局 (こども未来課)	第 1 回会議はかたりあ創造活動室で開催され、ファシリテーターによるアイスブレイクで関係性を構築した後、参加者から活発な意見が出ました。第 2 回ではこども憲章改定や磐田市こども条例のパンフレット等について議論し、予想以上に多くの意見が出されました。小学生は大学生・高校生の意見に感心し、大学生・高校生は小中学生の意見を上手に引き出していました。事務局の予想を超える盛り上がりを見せる会議となっています。
会長	とてもいい雰囲気であったということで安心しました。 こども憲章の改定も入っていますが、現在は 12 項目あり、少し多いと感じます。そこも含めて子どもたち自身が考えるという感じですか。
事務局 (こども未来課)	市制施行 10 周年記念でこども憲章を策定し、具体的な行動指針として「こども憲章 未来につなぐみんなの心得」を作成しました。現在、項目数の削減や現在の環境に合わせた見直しを検討しています。 改定にあたっては、こども・若者会議の参加者に加え、「いわたのくらしラボ」というオンラインプラットフォームを通じて市内の小中高生から広く意見を聴取する予定です。これは、当初の策定時に 1,700 人ほどの市民や小中学生の意見を基に制定したことを踏まえたものです。市内の小・中学生及び、市内の高校生、皆様から意見を聴取して、決定していくような形で考えております。

自由意見 会長	では、各委員から簡単にご意見があれば伺いたいと思います。
副会長	今、自分の居場所が欲しいということが非常に言われております。赤ちゃんを育てる母親の居場所、高齢者の居場所づくりなどが話題となっており、これほど「居場所」が求められる時代は他にないのではないかと思います。 また、資料2ページの医療機関等との連携による課題解決、家庭への支援プラン作成というところは、健康増進課との連携も非常に大切なことになってくるのではないかと考えております。
委員	小学校低学年の子どもたちが下校する際の安全対策に対して不安を感じています。 また、津波避難に関して、どの程度の津波で避難しなければならないのか、具体的な情報をもっと広く知らせる必要があると感じています。
委員	子どもに関する事業が、こんなにもあるとは思っていませんでした。
委員	保育園に入園しやすくなってきたと感じています。定員の変更やこども園への移行など、この会議で出された意見が反映され、状況が改善されているのだと思います。この会議の重要性を再認識しました。
委員	放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な取組について、取組状況が△で現状維持となっていますが、これは何を取り組んで、今年もまだ現状維持で、まだ一部しかやらないということなのか確認したいです。
事務局 (放課後活動課)	令和5年度末までは国の放課後子ども総合プランに基づいて、放課後子ども教室と放課後児童クラブの連携を強化するプランでしたので、NPO団体や静岡産業大学などとのコラボ事業を開催してきました。 しかし、国の方針が変わりまして、放課後児童クラブに関しては、放課後子ども教室との連携よりもむしろ、活動場所の確保や人材の確保がメインになるように方向性が修正されました。 今後も子ども教室として子どもたちが新たな経験をする場を模索していきたいと考えております。
委員	健康被害防止教育の取組のところで、「デジタルデバイスの長時間使用やメンタルヘルス等の課題に対し、効果的な健康被害防止に取り組んで

事務局 (学校教育課)	いく。各家庭との協力を得ながら進めていく」とありますが、具体的に どのようなことをやっているのでしょうか。 また、小中学校におけるキャリア教育で、「コミュニティ・スクール・ ディレクター（以下 CSD）やコミュニティ・スクール・コーディネーター （以下 CSC）によるキャリア教育の実践」について、どこの学校がどうい うキャリア教育を受けるのかが具体的に公表されていて、みんなが見る ことができるところがあるのかという質問です。 まず 1 点目について、GIGA スクール構想が 5 年目を迎え、各家庭でも スマホや iPad 等、子どもたちがデジタル機器を使う環境が広がっていま す。 健康被害として、視力低下が最も見られ、また睡眠時間が削られている 現状があります。こうした課題を学校と家庭で共有し、セルフコント ロールの方法を学校と家庭が連携して高めていくことが重要です。 過去においても、保健だよりを中心にチラシ等を作成し、学校と家庭 での啓発を進めています。 2 点目について、CSD や CSC の活躍により、地域や企業との連携を通 じたキャリア教育が、コロナ明け以降急激に増えています。 学校や学府の取組はホームページで紹介していますが、企業や講師の データベース的なものについては、CSD と連携してどのように構築する か検討している段階です。今後、情報発信を充実させていきたいと考え ています。
委員	子どもの生命と人権を守る体制整備について確認します。DV、虐待の 被害防止ということで、実際の課題は多いと思います。以前から高い関 心を持って設置してきた経緯もあり、自治デザイン課と連携して事業を 進めていると聞いています。 せっかく同じような活動をしていくのであれば、できれば自治デザイ ン課も会議に出席してもらいたいという希望がありまして、検討してい ただきたいと思います。
事務局 (こども若者家庭 センター)	検討いたします。
委員	条例はどう周知していくかが課題だと感じています。 他市でこういった取組をしているのか教えてください。

事務局 (こども未来課)	今後、先進地の視察を予定しています。 周知活動につきましては、こども・若者会議や今後に予定している視察の実例を含めて、効果的なものを検討していきます。
委員	少子化が進み、保育園では0歳児の定員を満杯にするのは難しい状況があります。また、小規模保育事業所は3歳で卒園しますが、3歳の受け入れ先がほぼ満杯で空きが少なく、困っている方が多いと思います。 デジタル化が進み、自分で書くことが少なくなりました。日本の文化である漢字の能力下がってくるのではないかと心配です。
委員	小規模保育事業所を利用している保護者は3歳以降の受け皿確保を非常に心配しており、多くの問合せを受けているのが現状です。定員変更が保護者の安心につながるとよいと感じました。 病児・病後児保育について、親が休めないという現状があります。企業側がもう少し対応してほしいと感じます。先ほど委員がおっしゃったように、これからの重点課題だと思います。
委員	こどもの声を聴くとのことですが、放課後デイサービスの利用者や5年生以下の声も聴いてもらえるとよいです。 施策評価シートについて、現状維持が多いが、もっとこども達の意見を取り込めるとよいと思います。
委員	少子化が進む中、様々な事業をどのように集中させ選択をしていくか、事業をどのように発信していくのが課題だと思います。
会長	様々な視点からのご発言、ありがとうございました。 この会議での協議が磐田市の子育て支援のさらなる充実と子どもたちの健やかな成長につながることを期待しております。皆様の活発な議論と御協力を、また、今後もよろしくお願いいたします。 以上をもちまして、本日の議事を終了させていただきます。限られた時間の中、皆様から貴重な御意見をいただき、また会議の進行に御協力をいただき、本当にありがとうございました。 それでは、進行を事務局にお返しいたします。
事務局 (こども未来課)	次回の会議は、1月頃を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局 (こども部長)	最後に一点事務連絡で、病児・病後児保育事業の達成率について、非常に高い数値となっておりますが、施設が増え、受け皿が増えたことも要因にあります。 また、津波の関係ですが、市のホームページに津波避難計画、地区別のハザードマップがありまして、色分けされた地図がありますので、ぜひ御確認ください。
5 閉会 事務局 (こども未来課)	それでは以上をもちまして、令和7年度第1回磐田市子ども・子育て会議を終了させていただきます。ありがとうございました。